
日本村落研究学会 研究通信

(No.264 2022. 7. 7)

JARS (Japanese Association for Rural Studies)
Newsletter (No.264, July 7, 2022)

(事務局) 藤村美穂(総務担当)・福本純子(会計担当)・望月美希 (Web 担当)

連絡先: 〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄1

佐賀大学 農学部 藤村美穂研究室内

TEL: 0952-28-8728 E-Mail: 2021sonkenjimu@gmail.com

郵便振替口座: 00150-9-387521 日本村落研究学会

ホームページ・アドレス: <http://rural-studies.jp/>

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| I. 理事会報告 (2022 年度第 3 回理事会) | II. 第 70 回 (2022 年度) 大会の案内 |
| III. 日本村落研究学会賞選考委員会報告 | IV. 国際交流委員会報告 |
| V. 地区研究会情報 | VI. 追悼 |
| VII. 新入会員の紹介 | |
-

【重要なお知らせ】

■ 11 月 19 日・20 日に予定されている 2022 年度大会 (第 70 回大会) は、明治大学にて対面で開催することとなりました。自由報告のエントリーの締め切りは **7 月 22 日** です。(II. 第 70 回 (2022 年度) 大会の案内 参照)

I. 理事会報告

【2022 年度第 3 回理事会】

日時: 2022 年 4 月 23 日 (土) 9:00~12:00 (Web 会議)

出席者: (敬称略)

秋津元輝、奥井亜紗子、越智正樹、小内純子、佐久間政広、佐藤真弓、佐藤洋子、澁谷美紀、高村竜平、立川雅司、土居洋平、原山浩介、福田恵、藤井和佐、船戸修一、牧野厚史、三須田善暢、山内太 [事務局] 藤村美穂、福本純子、望月美希 計 21 名

1. 事務局

会員動向: 以下の会員異動について承認された。

○入会: 5 名 (VII. 新入会員の紹介参照)

○退会：3名

目黒茜（院生会員）、酒井貴広（正会員）、盛田清秀（正会員）

○後藤一蔵会員は退会の申し出があったが、特別会員として推挙することとした。

○特別会員：杉岡直人会員、細谷昂会員は来年度から特別会員となることが承認された。

会員数：409名

2. 各種委員会報告

(1) 研究委員会

①研究委員会の構成について

既に決定していたメンバー（越智正樹、佐久間政広、佐藤洋子、澁谷美紀、牧野厚史、山内太）の他に、北島義和会員も加わることが報告された。

②今年度の大会テーマについて議論中であることが報告された。

（原山浩介）

(2) 村研年報編集委員会

①『年報 村落社会研究第58集』編集の進捗について

3月末日が特集の査読用原稿の提出締切日であったが、提出状況が芳しくないことを報告した。

②『年報 村落社会研究』特集論文の査読実施の公表について

『年報 村落社会研究』特集論文では、これまでも査読を実施してきたが、そのことは必ずしも外部にわかる形になっていなかった。そこで、「編集後記」で査読者名を記載するとともに、外部から査読していることの根拠を求められた際には、それを示すことができるように「査読に関する内規」を作成することにした。

（藤井和佐）

(3) 村研ジャーナル編集委員会

①村研ジャーナル56号について

論文1本、特集1本、研究の窓、研究奨励賞選考評、受賞コメント、書評11本を掲載した56頁の号が2022年5月16日（月）に会員に発送見込みであることが報告された。

②ジャーナル57号（2022年10月刊行予定）について

編集状況について、論文1～2本、特別寄稿、書評等を掲載予定であることが報告された。

③その他

i ジャーナル58号以降について

現在査読中の論文が2本のみ（1本は57号掲載の可能性あり）であり、構成が厳しい状況であるが、原稿の打診や研究会の企画・原稿化、特別寄稿への依頼を行っていることが報告された。

ii 編集委員会の審査権限について

委員会の申し合わせを修正したことが報告された。

iii 投稿規程の修正について

次回理事会で投稿規程の修正の提案を予定していることが報告された。

iv 広告費について

広告費の引下げについて高村会員より提案（現行15,000円→5,000円もしくは10,000円）があり、10,000円に引き下げることが承認された。

(土居洋平)

(4) 国際交流委員会

①IRSA (国際農村社会学会) について

2022年7月19～22日、オーストラリア・ケアンズで開催されることが報告された。

5月～10月はケアンズ観光のハイシーズンのため、チケット・ホテル等を早めに予約するよう呼びかけがなされた。

②ARSA (アジア農村社会学会) について

2023年に開催予定であり、情報が入り次第共有がなされることが報告された。

(立川雅司)

(5) 学会賞選考委員会

研究奨励賞の候補論文が現在1本のみであることが報告され、論文の推薦について呼びかけがなされた。

学会研究奨励賞の理事委員として、牧野厚史会員が選出され、異議なく承認された。

学会研究奨励賞運用規則の改正案が出され、異議なく承認された。また、「単行書部門」を「著書部門」へ変更することや誤字の修正がなされることが議論され承認された。

(山内太)

3. 2022年度大会 (第70回大会) について

事務局より、明治大学が利用可能になったことにより、対面もしくはオンラインとのハイブリッド形式での開催が可能になったことが報告された。

これをうけ、開催形式について、将来の大会形式にもかかわる議論が行われたが、とりあえず今年度の大会は対面を原則としつつハイブリッド形式で行うこと、自由報告についてはオンライン報告の希望も受け付けるがオンライン報告の可否は大会事務局が状況に応じて判断すること、総会の運営方法については次回理事会で決定することが確認された。

4. 三媒体検討WG報告

三媒体検討WG事務局の土居会員から、2022年3月9日(水)に行われた会議(出席者:小内純子、秋津元輝、原山浩介、藤井和佐、藤村美穂、土居洋平)について報告がなされた。

全体として省力化を目指し、紙媒体の発行を減らして電子化できるところは電子化するという方向性が提案され、承認された。

5. 農業経済学関連学会協議会報告

(1) 農業経済学関連学会協議会について

農業経済学関連学会協議会がさる3月27日(日)にオンラインにて開催され、日本学術会議農業経済分科会報告として新型コロナウイルスの影響をテーマとした研究集会在開催されたこと、農業経済学関連の科研費の採択状況などについて報告があった。後者について、基盤Bよりも基盤Cの応募件数が多いが、それは基盤Cの方があたりやすいという間違った情報によるのではないかという指摘があった。さらに、農業問題研究学会および食農資源経済学会から、2022年11月26日に開催予定の国際シンポジウムについて、日本村落研究学会あてに共催等のかたちでの協力の打診があった。

(秋津元輝)

(2) 農業経済学関連学会編集委員長会議について

農業経済学関連学会編集委員長会議が2022年3月27日(日)にオンラインで開催され、電子ジャーナル化への取組み状況、査読付論文審査の現状と課題について議論した。次回は2024年に開催する予定で、査読前論文を公開するJxivの開設等を踏まえたオリジナルな原稿の条件に関する認識や、研究不正への対応など研究倫理、投稿・査読のオンラインシステム化に関する情報を交換することとした。

(高村竜平)

6. GEAHSS (人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会) 報告

(1) ジェンダー比率調査結果について

調査結果の公開に同意し、結果が公表されていることが報告された。

(2) GEAHSS5期運営委員会第1回について

2022年3月27日に行われた委員会に出席したことが報告された。

(3) GEAHSS 公開シンポジウムについて

2022年3月27日にGEAHSS 公開シンポジウムが行われたことと、2022年5月5日にもGEAHSS 関連のシンポジウムが行われることが報告された。

(佐藤洋子)

II. 第70回(2022年度)大会の案内(対面開催)

第70回(2022年度)大会は、施設利用の見通しがつかまりましたので、11月19日・20日の日程で、明治大学駿河台キャンパスにおいて開催します。今回は、3年ぶりの対面開催となります。

但し、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によっては、対面での開催が難しくなる可能性があります。その場合には、オンライン開催に変更します。

※開催形態の変更等がある場合は、随時、研究通信、メールニュース、ホームページ等でお知らせします。

【自由報告 まもなくエントリー締切】

前号でもお知らせしましたとおり、第70回大会(於 明治大学)における自由報告を募集しています。対面での報告となりますのでご注意ください。

大会報告エントリー締切 7月22日(金)

提出事項：報告者名、所属、報告タイトル

報告要旨提出締切 8月19日(金)

提出事項：報告要旨(1200字程度)

提出先：事務局内研究委員会宛に(メール、あるいは郵便にて)提出。

(事務局のメールアドレス、住所は通信の1頁をご覧ください)。

※学会からの受理連絡をもって受付完了とします。

III. 日本村落研究学会賞選考委員会報告

2022年2月14日発行「研究通信 No. 263」において、2022年度「日本村落研究学会研究奨励賞」の推薦を会員の皆様に2022年5月末までお願いいたしました。推薦期間内に1件の推薦があり、現在、選考委員会を組織し、選考作業を開始しております。今秋の2022年度村研大会にて結果をご報告いたします。

(山内太)

IV. 国際交流委員会報告

IRSA（国際農村社会学会）につきましては、2022年7月19日（火）～22日（金）にオーストラリア・ケアンズにおいて対面で開催される予定となっております。詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください。

IRSA ウェブサイト：<https://www.irsa2022.com/>

*会場：Pullman Cairns International Hotel

*Registration：Early Bird（4/末まで）695豪ドル（通常：870豪ドル）

オーストラリア渡航に関する情報

*入国のための条件は、常に変化していますので、下記のサイトで最新の情報を確認して頂ければ幸いです。以下に記載の情報は、アップデートされていない場合があります。今後、大きな変更がある場合には、村研のメーリングリストやウェブサイトでお知らせします。

<https://etas-auvisa.com/news/detail/goldcoast.html>

*入国審査手続き（出発前）

・オーストラリアの電子入国許可(ETAS)が必要。以前は、代理店からの代理申請ができましたが、コロナ禍の影響で本人申請のみとなっております。渡航72時間前までに電子申請を完了する。クレジットカード情報の入力が必要。ETAS(イータス)申請アプリ「AustralianETA」から申請が可能。

<https://australia-etas.com/>

*コロナ関連の手続き①（入国前：DPD登録）

・4月18日以降、入国前3日間のPCR陰性証明の提出は不要になったとのことです。

・DPD (Digital Passenger Declaration) のアプリをスマートフォンでダウンロードし、各種の登録・情報提供が必要。7日前から入力可能。出発直前までに登録完了が必要。

登録内容：2回のワクチン接種証明（2回目以降7日以上経過）、ビザの種類、オーストラリア国内でのコンタクト先電話番号、過去14日間の滞在歴

・ワクチン接種要件（日本語説明）

<https://www.homeaffairs.gov.au/covid-19/Documents/vaccination-and-testing/covid-19-vaccination-and-testing-Japanese.pdf>

*コロナ関連の手続き②（入国後：抗原検査）[2022/5/6時点]

入国後に抗原検査が求められています。代理店からの情報によりますと、最終目的地に到着した後に24時間以内に抗原検査を受ける必要があるとのことです。ホテルチェックイン後になると思われます。

*陰性の結果が判明するまでは外出は許可されません。抗原検査の所要時間は約15分。

仮に、陽性反応が出た場合には外出は不可、QLD州政府保健相へ報告をし、検査を受けた日から7日間自己隔離（自身のホテルの部屋で自己隔離）が必要となります。

*検査陽性時の対応に関するオーストラリア政府の説明

<https://www.qld.gov.au/health/conditions/health-alerts/coronavirus-covid-19/stay-informed/i-have-covid/first-steps-if-you-have-covid>

*外国からの入国者は、最終目的地の州の政府の方針に従うことになるようです。ケアンズがあるクイーンズランド州 (QLD) のコロナ対応に関する説明は以下をご覧ください。

<https://www.qld.gov.au/health/conditions/health-alerts/coronavirus-covid-19/current-status/public-health-directions/travelling-to-queensland/entering-queensland-from-overseas>

*日本への帰国時も入国手続きアプリ「Visit Japan Web サービス」(デジタル庁) や「ファーストトラック」(厚労省) での各種書類の登録などが必要です。ご注意ください。

https://www.digital.go.jp/policies/visit_japan_web/

<https://www.hco.mhlw.go.jp/fasttrack/>

(立川雅司)

V. 地区研究会情報

○関西東海地区・中四国地区開催案内

日時：2022年7月30日(土曜日) 13:30~15:30

会場：京都女子大学 S校舎3階 314教室 (対面とオンラインでのハイブリッド開催)

報告者：Dr. Theresia OEDL-WIESER

報告題(仮)：Comparative Study on Gender Equality of Family Farming Toward Sustainable Development based on Austrian Experience

参加申込：参加方法：参加ご希望の方は、7月28日までに、以下のURLから参加申込をお願いします。参加方法(ミーティング情報)をメールでご連絡いたします。

2022年度関西東海地区・中四国地区研究会参加申込フォーム

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdRYXDpcquaqHmuarsMr70uPQm3dHJ4fESZ_ngsRDu1MvSk8w/viewform?usp=pp_url

なお当日直接会場においていただき、対面にて研究会に参加されてもまったく問題ありません。

問い合わせ先 山内太(京都産業大学) futo@cc.kyoto-su.ac.jp

佐藤洋子(高知大学) yokosato@kochi-u.ac.jp

※本情報は電子メールでも配信しました。

VI. 追悼

東敏雄さんを悼む

細谷 昂

実はつい先ほど拙宅の近所を歩いていて、あ、ここが東さんの下宿だったな、と思いながら通ったばかり。帰ってパソコンを開いたら村研事務局から届いた追悼文依頼のメール。早速承諾の返事。

東さんは東北大学の経済学部の出身、私は文学部ですから、その意味では別々だったのですが、いろいろな縁で懐かしい方です。安保闘争(60年です)の時、大学院生会という学生組織が各学部

に出来て、この安保闘争が農民にどう受け止められているのか、が問題になって、院生会で調査をしよう、となりました。その時私が文学部の院生会を代表して出席したら、経済の院生会から出て来たのは、東さんでした。場所は東北大学農学研究所、安孫子さんが机を置いている農経の研究室でした。この三人の出席、後の村研そのものですね。

教員になって、集中講義で茨城大学を訪問したら、そこで東さんに会いました。やあやあというわけで、居酒屋で一杯酌み交わしたことはいうまでもありません。そして数年後、東さんが編さん委員をしておられた牛久市史の調査で、牛久をお訪ねしたこともありました。が、私は数回農家を訪問して話を聞いただけで、結局執筆できずに終わりましたが、十数巻あるりっぱな市史が出来上がって、東さんはそのなかに数多くの論稿を書いておいでです。

東さんは経済の出身ですから、むろん経済学的な論文を書いています。私が知っている範囲でいえば、『村落社会研究』第六集（1970年）には、「独占資本の形成と小農的過剰人口—日本農業の労働力基盤—」という論文を寄せています。また、1987年刊行の『勤労農民的経営と国家主義運動』は、みごとな経済史的業績です。

しかし、それだけではありません。例えば『親父の帽子』（1998年）という随筆集があります。子供の頃の思い出や、地域調査にまつわる話など、話題は各方面です。そしてとくに私が驚いたのは、『聞きがたり農村史』の三冊です。そのテーマの通り農民たちからの聞き語りで『Ⅰ大正から昭和初年の農民像』、『Ⅱ女性の仕事と生活の農村史』、『Ⅲ村の指導者とインテリたち』と三冊あります。農民たちの息づかいが聞こえてくるような記録で、読ませて頂いて、感動しました。

東さんのゼミナールの歴史を書いた『響鐘』（1997年）という本がありますが、それには、「教育学部から参加する人、酪農を営む農家の青年もいた、社会人の女性もいた、中国の大学を卒業し、故あって茨城大学の研究生となりゼミに参加する中国人もいた。いまでこそ言えることだが、私はこのなかに含まれる非正規ルートの人々を喜んで迎え入れた」とあります。東さんという方は、だから、狭い意味での経済学者ではなかったと思います。その意味では、まさに村研的な研究者だったといえるでしょう。

近ごろ（2000年代）では、仙台で開催されていた「村落研究を語る会」に、水戸からの日帰りもありながら、いつも出席。仮綴じ本のりっぱな報告原稿を配布して、みごとな報告をして下さいました。「経済学から家と村を語る」などです。

思い出を書き綴っているうちに規定枚数を越えてしまいました。心からご冥福をお祈りして、ワープロを閉じることにしましょう。

Ⅶ. 新入会員の紹介

（略）

